

日記帖

乙未年

乙未年

中等學校及青年學校用

印刷部 四十五折 五張四十枚 (定價拾圓)



學習ノート統制株式會社

岡本ノート株式會社製造

四月九日

月曜日

晴のち雨

いよいよ出発の日が来た。うれしくて朝の
う、あちこちを慌てまはってゐた。なにかし
やうと思つてもおちついて出来ない。

富山縣はどんなところかしら。まだ雪がのこ
てゐるかしらなどといろいろ考へてゐた。
午後から雨が降り出した。か「早くやまな
いかしら」夢さきかきではない。荷物の前に
すわつてお母様のお話を聞いてゐた。
「ここにはきがへがへつてますよ。」

はい。

とへんじをして、も、うれしくてよくあたま
に入らない。お父様も今日は早く歸つていら
しやう。

「いかりやるんだぞ。戦争に勝つためなのだ
からね。」

とみんなのうはげまされた。夕食は、お赤飯

のお食事も

だった。こいでいばだものも當分はただけ
ない。七時半ごろみんなにおわかれをして
父母につれられなつかしい家の門を出た。
雨は音もなく降りつづいてゐる。外は眞暗
で、時々水たまりにぼちゅんと入ってしまふ。
小林さんや笠井さんといっしょに行つた。
上野驛には、みんな大きな荷物を持って待つて
いらつしやつた。九時半頃お父様やお母様にい
てまねりますをして驛に行つた。まもなく汽車
は着いた。汽車に乗つて
からぬむいのですぐね
てしまつた。



四月十日 火曜日 曇りのち雨

目がさめたところは汽車の中だ。日の光
が山の上にうすく見えた。遠くまでわたりな
顔をしながら、窓から外の景色を見てゐた。
今どきいらへんを汽車が通つてゐるのかさうは
りわからない。すこし外の景色を見てみたか
たいくつして来たので、みんなでお話をし
朝食は九時頃いただいた。あまりおなか
いてゐないので、おむすびを二ついただいた。
朝食がすんでから、高田先生と、トランプを
して遊んだ。ばばぬきや五十一をした。と
おもしろかった。あちうからもこちらからも
ゆ快さうな笑ひ聲が聞える。とても氣持がよ
く、心が明かるくなる。笑ひ聲につつまれなが
ら、汽車はいつか長野へついた。汽車がこんで
ゐるので、私達の列車にもお客様が乗つて
らつしやつた。川中島をすぎると、どんねるが

いくつもあった。だんだん山も高くなり雪も
のこりておるやうになった。田町は、一米ぐう
もつもつてぬた。
直江津についてから、晝食をいただいた。晝食か
すんでから先生がおやしうずがあるとおっしゃ
るので、しゃけんめい見たが見えなかった。高岡に
ついてから乗かへをした。外は雨が降つてぬた。
高岡から福光まではすぐだった。福光へつくと
國民學校の生徒さんがおむかへに来て下さった。
さうして私達の荷物をもつて下さった。國民學
校へ着いてから、荷物をおいて、訓練道場へ行っ
た。今晚はここにとまるのだ。夕飯は、おいもの
御飯をいただいた。とてもおいしかった。つかれ
てゐるので、床に入ると、ぐっすりねむってし
まった。

四月十一日 水曜日 雨のち晴

朝目がさめるとまだ雨が降つてゐた。十時から
お式があるので國民學校までおぐ當をもつ
て行った。

お式が終つてから、お裁縫室で晝食をいただ
いた。おぐ當をもつて来たが、こちらの御飯
をいただいた。たいへんおいしかった。

午後は訓練道場へ歸つて、自づうに遊んだ。
夕飯の時先生が、

「お家からもつて来たものは、今晚で終です。
いただけなかったのは先生にお出しなさい。
とおっしゃったので、おいしいのかういただいた。
みんな、

「おなかいっぱいだよ。
などといひながら、ただいてゐた。今日は
とてもおなかがいっぱいになった。

四月十二日 木曜日 晴

朝食は御飯がたりなかったのでおかゆにする
ことになった。おかゆが出来るまで、タベの
こしたばんなどをいただいてゐた。すこしす
るとすぐおかゆが出来たのでいただいた。
八幡様へ行くと主事先生が
二部六年は吉波寮に代りました。
とおっしゃった。

午前中は山下寮のお掃除をした。一部六年の
長野さんといっしょに二階の一番すみの部屋を
掃除した。とてもごみが出た。
午後は吉波寮へ行った。とてもきれいな家
だ。家の前には小矢部川が流れておろし山も
見える。とてもよい景色だ。荷物がついてゐた
ので、一人づつ先生に託していただいた。全部
といつかう食器をもつて又國民學校へ歸った。
吉波寮へついてからうたいたい荷物をききとめた。

すこしするとをぢ様がいらっしやってお家の情況
のかいた紙を下された。封筒もつくつて下さった。
その裏には、ちゃんとはんがおしてあった。私は、
いんせつなをぢ様だなあ、
と思つた。

四月十三日 金曜日 晴



朝だれのにゆり起されて
目がさめた。部屋中、ばい
日がさしこんでゐた。
午前中は吉波寮の大掃除をし
た。荷物を全部どけて、うすべりもとつてお掃除
した。
午後は荷物をせいとんしてから、お花を取りに
川岸まで行った。がなにも咲いてゐなかった。それか
らお家にお手紙を出した。
後で先生がかわいい葉を花
びんにさして下さった。



四月十四日 土曜 晴
今日は八幡様のよひ祭だ。朝から太鼓の音が聞こえる。

午前中は行軍だ。金澤へ行く道を歩いて行った。畠道はあるいて行った。田にはへびやたにしがあつた。山に山に近くなつて行った。三十分ほどあるくと、山に來た。道を切り開いたので、だんさうが出来てゐた。そこからちかみ道を通つておどつた。小川のふちなので、ささ船をたくさん作つて流した。おもしろくてたまうない。時々どみにひつかかつてちんぼつしてしまふ。それにみとれておるうちに大通りへ出た。

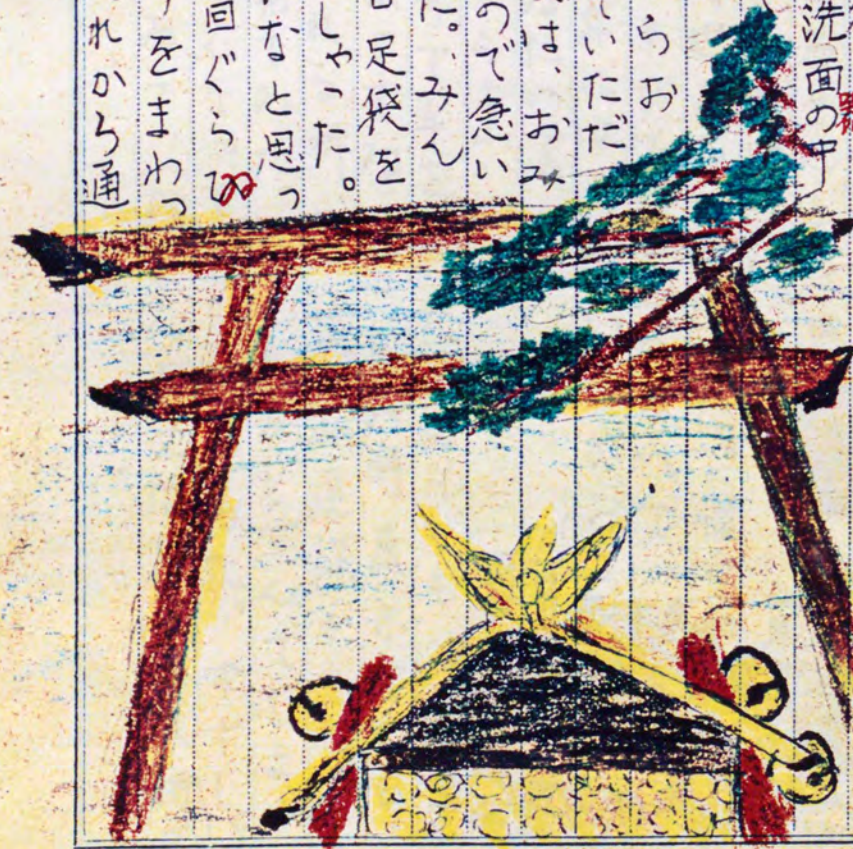


晝食後、まきを山下寮へ運んだ。それがすんでから吉波寮へ歸つてあみものをして遊んだ。寝る前、お風呂に入れさせていた。だいた。

四月十五日

日曜 晴

今日は本祭だ。九時に福光国民学校の生徒さんといっしょに参拜した。午前中は川でお洗濯をした。先生に洗面の中、に水を入れていただいた。洗ひ終つてからお二階にぼしていただいた。午後はおみこしが出るので急いで見に行った。みんなきれいな白足袋をはいていらつした。もったいないなと思つた。始めは二回ぐらひお宮のまわりをまわつてゐた。それから通



リへ出た。兩がすにはたくさん見物人がおた。だん
だん遠くへ行つてしまつたので並木先生のお荷物
をもつて寮へ歸つた。歸つてから、お兄様方とトラ
ニアをしてあそんだ。手品もおしへていた。だいた
七時半ごろをち様がお経をおよめになるので
いしよにおまゐりした。

四月十六日 月曜日 晴

朝食後 國民學校の日の當つてゐる所で体重を
く定をした。小さい方の組から順にはかつた。
私はへつてしまつた。終つてからおさんぽを
した。石碑を見に行つた。いろいろ違ふの
があつた。高田先生がいちいち説明して下さ
たのでよくわかつた。それからたんぼ道を
通つて行つた。田はきちんと並んで、遠く
の方までつづいてゐた。

午後は日記をかいだ。私は十二日からしま
てゐた。今度はもうためないやうにしよ

うと思つた

今日から夕食がすんで

からお掃除をする事になつ

た。私は、田島さんと吉田

さんとで廊下をはいだ。

歸りは川辺をおさんぽした。櫻

が春の日をあびて一つ二つ咲いて

ゐた。向ふ岸には三部六年がおさ

んぽをしてゐたので、

「さよーなうー」

と大きな聲で手を振つた。向うでも

ばうしを振つてゐた。その時眞赤な夕日

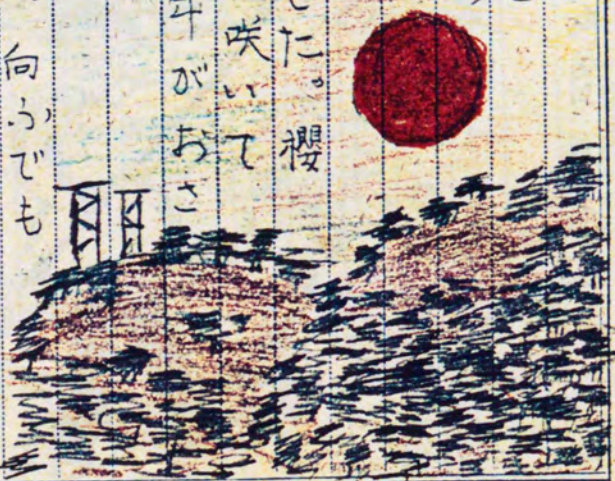
が山へかくれる所だつた。私達は、かくれてし

まふまで見てゐた。どんどんしずんでしまつ

た。見えなくなつてからもどつた。すずしい

風が吹いてゐて、おさんぽにはとても氣持が

よかつた。



面白い

四月十七日 火曜日 晴
 朝會がすんでから、~~お宮の石だ~~お宮の石だ
 んの所で寫眞を取った。先生は
 「面白い顔をして寫すのだ。」
 とおっしゃった。私はどんな顔をしてよいかわから
 なくなってしまうた。
 午後は川土手で日向ぼっこ
 をした。時々風がすうーと
 通って行く。とても氣持が
 よかった。一時間ほどして
 からお部屋へへって日記を
 かいたりあみものをし
 たりした。
 四月十八日 水曜日 晴
 今日はとても風がひどい。
 宿舎へ歸ってから太島さ
 んの毛糸を手どいた。



明日から授業が始るので時間割表を吉田さ
 んと作った。
 午後は寮へ歸って、お家のお手傳ひをし
 た。木を運んだりした。それからお家へ入
 って日記を書いたりあみものをしたりした。
 夕方明日の時間割をそろへた。
 四月十九日 木曜日 曇り
 朝からどんよりと曇ってゐる。授業八幡
 様のけいだいでやった。二時間目をはると
 とうとう雨が降り出した。三時間目は山下寮
 で自習をした。
 午後吉田さんと大島さんが今を~~傘~~取って来



て下さった。私達は吉波寮へ歸った。よいも
んぺをはいてゐるのではねがあらうないやう
に静かにあるいて行つた。



四月二十日 金曜日 曇

目がさめると、もう雨はやんでゐたので
うれしいなと思つた。でも傘は用意して行
た。

一時間目の國語の時間は山下寮で黒龍江の
解氷をおならひした。學年の一番組めは、
いかに詩をおならひする。

地理の時間は、上野駅かう、福光までの鐵

道をしうべた。

午後は自習なので山下寮の門の前で遊んで
みた。さっぱり時間かわらない。押尾
先生がいらつしやうたのでお聞きすると

六時間目終つたでせう。

とおっしゃつたのであつて行つた。しかられ
るかと思つて、びくびくして行つたがしがら
れなかつたので安心した。今日はお裁縫箱

の中をせりした

寝る前におきたつに

あたたかた。とてもあ
たかかつた。



四月二十一日

土曜日

晴時々曇

朝會が終つてから吉波寮へ歸つて綴方用紙とふで箱を持って小矢部川へ行つた。川の音を聞きながら、黒龍江の解氷をやつた。とても氣持がよかつた。それが終つた。午後には題で綴方をかいた。私は春が来たといふ題でかいた。お晝までにかきあげた。午後は自習なので吉波寮へ歸つて日記をかいた。

夕飯もすんで寮舎へ歸ると、木村先生がおべんほにさそひにいらつしやうした。高田先生が、

「おそたいん、いらつしやう。」

とおっしゃつたので私はついて行つた。五人で手をつないで、

「タヤケ、タヤケで、日がくれて。」

と歌ひながら一つみをおるいて行つた。櫻がとてもきれいだった。下を通ると、よい



にほひがした。きれいな櫻がおちてゐたので、あるす番の方のおみやげにした。鐵橋を渡り始めると雨がぽつぽつ降つて来た。おはかの前へ行くとこはないので急いで通りすぎた。雨がだんだんひどくなつて来たので、五人で「さうさ」と行つた。先生とはなれてしまふと急にこわくなつて、

「きゃーきゃーいひながら」

先生の所へもどつた。

歸つてから、おみやげの

櫻をーりんごしにさし

た。とてもきれいだつた。

四月二十二日 日曜日 晴

朝會がすんでから、青春年學徒にたまはり
たる勅詔奉讀式をした。
寮舎へ歸つてから大掃除をした。吉田さん
と田島さんと私の三人でお部屋を掃除した。
うすべりは第一日曜だけ取ることにして、今
日は取らなかった。お部屋がすんでから、お庭の
お手傳をした。きれいに becoming してから、四人づ
つお風呂場で頭洗ひをした。とてもさっぱり
りした。すこししてからみんなでおみせご
こをした。くさなどをたくさんとって来て私
は食堂をやった。とてもおもしろかった。



四月二十三日 月曜日 晴

今日は行軍だ。朝食後おべんたうをつめた。
さうして元氣で立野ヶ原へ向った。除中櫻が
とてもきれいだった。もう雪は全部きんてお
た。ついてから、石黒所長さんがグライダー
について説明して下さった。私もなんだかのり
たいなと思つた。すこししてから、小川の
そばでおべんたうをいただいた。とてもお
いしかった。おべんたうがすんでからおさん
ぽをした。野原でねころんでみた。ぴい
くぴいちくといいひばりのなきごえだけが
楽しさうに聞こえた。二十分ほどしてから、
おべんたうをいただいたところへ歸つて来た。
さうして、ふきのとうやつくしを取ったりし
た。夕食の時取つて来たふきのとうをいただい
た。とてもおいしかった。

紀元則
ひまかたの
光のどけき
春の日に
ふんちんを
かきまわす

四月二十四日 火曜日 晴

國語の時間は日露戦争の石碑の前で永久
王をおならひした。時間中櫻の花がうが
ひらひら、ひらひらと散って来た。
二時間目と三時間目は、けいだいのうらで地理を
した。おくれおるのどんとんすすんだ。あま
り石の上ばかりすわってゐたのですこしひえたや
うな気がした。
午後は洗濯をした。私は下着と下ばきを洗った。
下着はとも洗ひにくかった。七時半ごろお兄様
が大坂の方へお立ちになるのでおみおくりをした。



四月二十五日 水曜日 時

たのしい時
大(ん)きう

目がさめると、もう日が部屋中さし込んでゐた。
今日もお天気だ。うれしいなと思ひなが起床を
まった。
朝會の前みんなでお人形遊びをした。とても
おもしろかった。朝會はじまっても、楽しかつ
た事を思つては、一人で楽しんでゐた。それなの
で体操がよく出来なかつた。これからはきよつけ
やなにも考へずにしつかりやうと思つた。
音楽の時間は天長節の歌のおけいこをした。
午後の体操の時間はきちんと列をただして小矢部
川へ行った。さうして、左川のダムのお話や福光の
お話をお聞きした。夜寝る時、先生が、私達の
事について、いろいろな注意をおっしゃった。これか
らゆるかった事などあらためてしつかり一日一
日をくらし行かうと思つた。

四月二十六日 木曜日 時

今日もお天気だ。國語の時間は、しばふのところでやった。御旗の影をひとくぎりづつよんだ。私は上手によめなかつたので、もっともつとれん習して、上手によめるやうにしようと思った。午後の國史は山下寮のお玄關の前でやった。宮地先生におならひするのは始めてなので、今までのやりかたよりむづかしいやうな感じがした。國史がすんでから寮へ歸つたさうしてとこやさんへ行つた。私は相良さんと一番始めに行つた。お客様のすむまであやとりをしてまつてゐた。あたまをきれいにかつてしまふと、とても氣持がよかつた。



しつゝ勉強して
まじつていこう
しやい

四月二十七日 金曜日 曇

目がさめると曇つてゐた。雨がふらないといいなと思つた。

國語の時間に綴方をかへしていただいた。一時間目が終ると高田先生はすぐお家へお歸りになつた。二時間目頃かう雨がぽつぽつ降つて來た。三時間目の地理は圖書館でやつた。

晝食後圖書館のお掃除をした。お掃除がすむと雨は夕立のやうに、さあーとあ降つて來た。急いで寮へ歸つた。するとかみなりがごろごろなりだした。みんなでこわいこわいといひながらかたまってゐた。

ごろく



四月二十八日

土曜日 晴

今日は自習ばかりなので、寮へ歸った。この
間理はつをしなかつた人はとこ屋さんへ行っ
た。三時間目は明日の天長節のお式のおけ
いこをした。今までのお式のしかたと、す
こしちがってゐた。

午後は寮へ歸って日記をかいた。私はた
まづしてしまつたので、いそいでかいた。
夜はトランプをした。とてもおもしろかつ
た。



四月二十九日 日曜日 曇り時々晴

今日はおめでたい天長節だ。朝は曇って
みたが、日の丸の旗がなびいてゐて、心ばと
てもほがらかになつて、しるすしるすにこ
にこして来る。御飯はお赤飯だった。お
にしめなどがあつて、とてもおいしかった。
お式まで、お部屋でしづかに待つてゐた。
お式は長いかと思つたがわりとみぢかつ
た。

午後はたにし取りに行った。行かない方
もいうつしやつたので四人で行った。くに子さ
んといっしょに行つた。どこまで行くのかと
思つてゐるとすぐ近くだった。とてもたぐ
さんあつた。おもしろいほど取れる。時々
かへるがぴよんととび出て来る。みんな
きゃーといふと、くに子さんが、
かへるがこはいのー。

と笑はれてしまった。バケツに半分以上も取れた。とてもうれしかった。

四月三十日 月曜日 晴

今日は自羽白ばかりなので寮へかへった。さうしてお洗濯をするために山下寮へ行く事になった。私はおなかをこわしたので、ひえるとたいへんだと思つて行かなかつた。さうして、日向ぼっこをしてゐた。おひるはぜつ食じようと思つてゐたがおなかがす



検 五月一日

素直に下り、よく書ける。心のゆたかな、明るい、感のよい。日記に表れてゐる。あすくよい子になる。努力して下りよう。最高学年とて取らないうちに、みんをも仲良くするやうに積極的にならう。

五月一日 火曜日 雨のち曇

午前中は、まき運びだ。朝食後雨がぼつぼつ降つて来た。私は傘をもつてこないのので田島さんに入れていただいた。うねうねまがつた道を歩いて行つた。わりと近くだ。ごうごうという機械の音が勇しく聞こえた。久米川にぬれた時と違って、長いく木をかついで行つた。雨が降つてゐたが傘

はささずに行った。やにが手にべとべとついてしまった。二回で全部運び終った。それから寮へ歸つてあみものをした。午後には山下寮のしめった薪と國民學校のかはいた薪とかへた。もう雨はやんでゐる。作業がおもしろくなつたので、元氣にやつた寮へかへると先生が「今日日記をおだしなさい」とおっしゃった。たまつておたので、急いで書いた。これからはためないやうにしようと思つた。



傘

五月二日 水曜日 雨

目がさめると雨が、川の流のやうな音をたてながら降つてゐた。つまらないなと思つた。七理さんの傘がこわれてゐるので私の傘にいらてあげた。一時間目は自習だ。山下寮で近藤先生のお手傳ひをした。明日の体かくけんをこにつかふ体重計と身長計のお掃除をした。二、三時間目は國語をした。御旗の影のかいしゃくをした。雨はまだまだ降つてゐた。

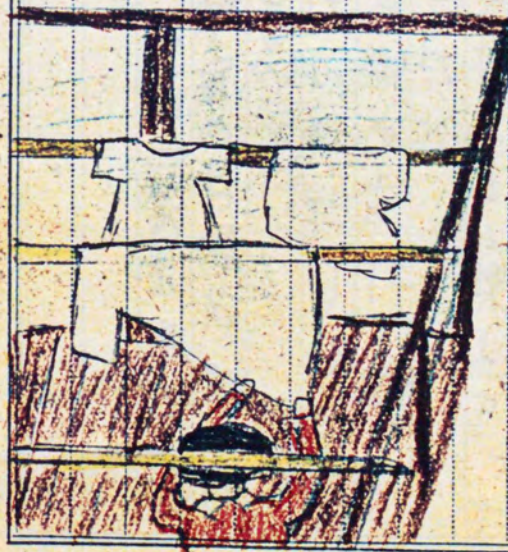


種痘

五月三日 木曜日 晴

一時間目は炊事場の大掃除をした。とても
もじみが出る。阿部先生が指導して下さ
った。お掃除が終わってから、この間お洗濯を
しなかった人はお洗濯をした。とても水
がつかれたかった。それなので、ていねいに
あらへなかつた。ほす時やつと、雲の間から
お日様が顔を出して来た。早くかはくとい
なと思った。

午後種とうをやった。
いたいと思つてびくび
くしてみたがすこしも
いたくなかつた。



五月四日 金曜日 晴

朝會の前に高田先生に耳の掃除をしていた
だいた、とてもさっぱりした。
一時間目が終わってから高田先生にアルプスの
山の娘をよんでいただいた。ハイヂがあまり
おもしろいことをするのでとてもおかし
かつた。

午後は体かく検査をした。御飯をいただいた
あとのなので、すこし体重がふえてみた。

ひさしぶりにせいの高さをはかった。一米三
十厘あった。とてもうれしかった。でも小さい
方からは二番目だった。すこしがっかりし
てしまった。

夕食の時山の方から、もくもくと、はい色
の雲が出て来た。明日は行軍なのに雨がふ
らないといいなと思つてみた。

五月五日

土曜日 曇のち晴

今日は端午の節句だ。さうして行軍だ。どんより曇ってゐる空を見ながら私は考へた。

去年のお節句の時は、とてもお天気が、啓ちゃんといっしよに鍾馗様をかざってひげを取ってしまつたけな。今年はどうしてゐるかな。

と……そこへつた。たまたま、楽しかった事を頭にうかべてゐた。

朝食の時はとても御ち走だ。こんな御ち走は東京ではいただけないのだ。私はありがたいなと思つた。

午前中女学校のお教室のお掃除をした。月曜日からはこのでお勉強が出来るのだ。とてもうれしかった。

五月六日

日曜日

晴

今日はとてもよいお天気だ。午前中全校鍛錬をした。ひさしぶりにもんぺをぬぐと、足がほそくなったやうな気がした。からだがとてもかるくなつたやうな気がして、びよんぴよんはねまはつた。とてもうれしかった。すこしして

ピョー

と笛がなつたので急いで集合した。なんだか小石川の運動場のやうな気がした。すこし体操をしてから、投擲球をした。ひさしぶりでやるのだ。ボールをうけ取らうと思つても上手にうけとれなかつた。途中から阿部先生がおはいりになった。とてもおもしろかった。二回位するとやめになつた。

今度は蹴壘球をした。やはり上手に出

来なかった。もっとおけいさしなくてはだ
めだと思った。
最後に行進をした。なんだかとてももう
れしかった。



五月七日 月曜日晴
今日は行軍だ。朝食は学校でいただ
いた。一つのお机に一人づつすわれるので、
とてもうれしかった。朝食がすんでから食器

はそこへおいて、すぐ運動場へ集合した。ま
だみんなこないで、鐵棒をした。さかあが
りもなんにも出来なくなっていました。みん
なあつまってからすぐ出發した。途中で二
三年とわかれて私達は横道へ入った。すみ
れ山吹き、れんげ草いろいろな花が咲いて
おた。とてもきれいだ。小川があら
こちにちよろちよろ流れておた。時々け
ろけろと蛙がないておた。とても氣持がよ
かった。島へ行くと鋤でたがやしておた。と
てもおなからうしかった。小さい子がお手傳
ひをしておた。しうずしうず山がだ
んだん近くなってきた。堀先生のお家
でお晝御飯をいただいた。見るともう
山は目の前につたっておた。とてもう
れしかった。それから小矢部川を渡り
小川にそって行った。そこでふきをすこし取

に。それから坂の様な所で、ふきやのびる
を取った。とてもおもしろい。いままでの
つかれもすっかりぬすれてしまった。
「おりろー」

と先生がおっしゃったが、まだここで取って
たいやうな気がした。それから道について
登って行った。雪どけく、水が道いっぱい
にたまっていた。それから神明社で取
て来た。のびるやふきのせいりをした。さう
して、のびるは七理さんのふくらみに入ふき
は堺井さんの袋に入れた。十分ほどして
から、出發した。すると廣い野原に出た。
そこで訓練所へ向うてわらびやぜんまいを
とることにした。始めのうちにはちっともなか
た。どこまで行ってもない。するとすこし先
方で阿部先生が、
「ここにたくさんあるぞ。」

とおっしゃったのでいそいで行った。すると
大きなのがにきよにきよでてゐた。私はと
てもうれしかった。ここにもある。ここにも
あると言つて、あちこちとびまはった。空
ではひばりが楽しそうにさんづつてゐた。さ
き遠くの方に見えた訓練所がすぐ近くに見
えて来た。グラインダーが二だいもある。滑
走のれん習をしていうつしやつた。私達が見て
みると、教官の方が高くあがつて見せて下さ
つた。とても氣持よさそうだった。私ものこ
見たいなと思つた。
歸へりは元氣よく歌を取って歸った。今
日は一日中とても楽しかった。つかれてゐる
ので早く寝た。

観音經

五月八日 火曜日 晴
 朝會が終つてかう大詔奉戴式をやった。
 それのすんでから、一号教室で慰問文
 をかいた。今月は海軍あてに出すのだ。心
 をこめていっしょうけんめいかいた。
 お晝のおしるには昨日取つて来たふきやわ
 らびが入つてゐた。とてもおもしろかつた。
 午後は封筒をつくつて慰問文をいれた。そ
 れかう吉波寮へ歸つて日記をかいた。そ
 の夜ほとけ様をお
 まおりした。をぢ様
 がかん音經をよんで
 下さつた。私はお
 家のほとけ様の前で
 かん音經をよんだこ
 とを思ひだしてなつ
 かしく思つた。



五月九日 水曜日 雨
 朝はとて曇つてゐた。朝食の時にとう
 雨が降つて来た。それなので午前中の薪運び
 はやめになった。やうして授業をした。一
 時間目の算数は阿久澤先生だ。始めて授業
 を受けるのだ。今日は、戸籍調べをした。
 二時間目は炊事場で、のびるのお掃除をした。
 雨は音をたてて降つてゐた。なんだか寒いやう
 な気がしたが、負けるものかとがん張つた。
 午後は英霊を迎へるので、校服を着て、
 福光驛の近くまでお迎へに行った。しばらく
 すると白い包みに包まって歸つていらつしや
 った。私は心からお禮を言つた。目じりがとて
 もあつくなつた。
 雨が小雨になつたので、薪運びをする事
 になった。寮へ歸つて用意をし、山下寮へ行く
 と、又雨がひどくなつたので薪運びはやめにな
 った。

た。さうして、お部屋で石田先生や宮地先生にいろいろおもしろいお話を聞いていた。夕食後寮へ歸って、お家にお手紙をかけた。



五月十日

木曜日

晴

昨日の雨もやんでとてもよく晴れてゐた。午前中は四年以上は新運びをした。今日は七回以上運ぶのだといきごんでやった。山下寮へ行くと石田先生や喜門先生が位を付けて下さる。たくさんもって行くと、どん

どん進級できるのだ。私は出来るだけ持つて行った。さうして少尉まで進級した。とてもうれしかった。

五時間目の圖工は、寫生のつづきをした。今日は木などをかいた。だいぶ出来て来た。寮へ歸ってから発表會のげきのれんしうをした。

夕食はよもぎ御飯だった。とてもおいしかった。



五月十一日 金曜日 曇一時雨

今日は行軍だ。目がさめると、雨がすこし降ってゐた。洗面がすむともうやんだ。とてもうれしかった。でもまだどんより曇ってゐる。

朝食後おべんたうをつめて、すぐ出発した。お宮まではこの間とおなじ所だった。でも、二三日のうちにずぬぐんいろいろかはった所があった。苗代の花がどこもきれいにさいてゐた。苗代の苗もずぬぐん大きくなつてゐた。お宮からすこし行つた所でよこ道へ入った。すると、急に山が近くなつた。やうな気がした。それからくねりくねりまがった道がある。いて桃野さんのお家ですこし休み。今度はほそいほそい道を通つて行つた。始ぬぬのうちはこわいやうな気がした。でもなれるとちつともこわくなかつた。

それからだんだん山の方へ行つた。川のふちを通つたり、つるつるすべる道を通つたりした。きうしてふきやわらびなどを取つた。わらびはこの間とちがつて、とても大きなのばかりだった。

お晝は太美村国民学校でおべんたうをいただいた。とてもおいしかった。二十分ほど休んでまた出発した。小矢部川の方でふきをたくさん取った。ふくらいばい取った。それから今来た道を通つて歸つた。今日はあまりつかれなかった。

五月十二日 土曜日

今日は非常訓練があった。学校へ行く時は警戒警報發令中のしたくで行つた。云々しふりに防空ぎんをかけた。

一時間目が終ると訓練空襲警報發令になつた。急いでふくやうをととのへ神社境

めへ行った。さうして、木の下にひなんした。情報がつぎつぎにあった。さうしてすぐ解除になった。

午後大島さんのお母様が面會にいらつしやうた。なんだかおれに面會にいらつしやうたやうな気がしてうれしかった。それから夕食まで先生にアルプスの山の娘をよんでいただいた。

五月十三日 日曜日 晴

午前中は大掃除をした。おふとんななどをみんなおとなりのお部屋へうつしてすみからすみまできれいにした。おれは本を一つ一つきれいにした。とてもたたくさんあった。掃除中までやると大島さんのお母様がお歸りになるので、みんなで川の所までお見おくりをした。お掃除が出来てから、暗まきをぬった。

午後は学校のさうじやうのお掃除をした。いっしょうけんめいやったので、見ちがへるほどきれいになった。出来てからもうれしくて、なんどもなんども見た。

夜お風呂へ入った。とてもきもちがよかった。

検

五月十四日 月曜日 晴
 一時間目は洗濯をした。とてまたまっでね
 て、お洗濯ものがたくさんあった。私の洗面
 器は小さいのでばけつをおかりした。
 二時間目の国語は見わたせばをやった。
 私は和歌が大スキだ。
 四時間目の国史は記念碑の前でやった。と
 ても氣持がよかった。六時間目はひこじぶり
 にお習字をした。

五月十五日

素直によく書いてゐます。間違ひ字をよく見て、この
 次から同じ間違ひをしないやうにします。
 このやうな調子でもう少し短く、一かも一日をいかに
 やうに早く研究を——すまい

五月十五日

火曜日

目がさめると、どんより曇つてゐて、雨がふり
 やうなお天気だ。でも時々雲の間から顔を出し

お日様の



てうすいので私達のからだをそっとなでる
 やうに照ったりした。青空がどこかにない
 かと空を見たが、やっぱりなかった。なんだか
 青空がないとさみしいやうな氣がした。
 三時間目の理科は實物を研究した。神
 社境内の樹木をしらべた。理科をおならひ
 してから實物の觀察をしたのは始めてだ。
 すこしもづかしいやうな氣がした。
 夜、待ちに待った音楽會をした。とてもお
 もしろかった。

五月十六日 水曜日 雨のち曇

目がさめるとどろどろと雨が降ってきた。雨降ってきた。つまらないなあと思った。

雨降ってきた。つまらないなあと思った。雨降ってきた。つまらないなあと思った。

朝食をいただいている時、くものきれめから、きもちのよいすっきりした青空が出て来た。私は急に心があかるくなって、ああうれしいところを出してしまった。

六時間目明日の発表会の練習をした。発表会は明日にせまったのだ。早く明日がこないかなと思ひながらいろいろと相対想像をした。練習が終ってから日記をかいてみると、日が私のせなかを照らした。とてもうれしかった。なんだからお母様がせなかをなでて下さるやうだった。

五月十七日 木曜日 雨

びゅーびゅーという風の音で目がさめた。家が風でふき飛ばされさうな気がした。外を見ようと雨も降ってゐた。傘をさしたうおちこになつてしまふだらうと考へた。

午後は楽しい発表会だ。うれしくてたまらない。私は一番始めの会開の辞だ。胸がどきどきしてなかなかおちつけなかった。

さうして顔がほつて来たのでとても困った。でもまちがへずにすんだので安心した。二年生の仲若れはかはいくとてもおもしろかった。次々にいろいろあもしろいのがあった。午後はたのしい笑ひですごした。とても心が明かるくなった。この気持ちを忘れず毎日明かるい心でくらしで行かうと思った。

詩の心

五月十八日 金曜日 曇時々雨
 目がさめると昨日の雨もひどい風もや
 んでおた。でも空はどんよりと曇って
 今にも雨が降りそうだった。
 一時間目は、高田先生につれられて、
 園に行った。木のみどりが雨にぬれて、
 とてもきれいだった。白いふじが一ふ
 さ咲いておた。
 栖霞園は、草がぼうぼう生えておた。
 た一つ石碑がたつておるだけだった。
 お城が立っておたとはちっとも思へない。
 その石碑のそばに、一本の形のよい
 とい松の木が立っておた。この松の木は
 お城のあった時からあった木だらうと思
 っている。いろいろお城の事をさうさう
 帰る時は、目にも見えないやうな雨が、
 音もなく降っておた。



五月十九日 土曜日 晴時々曇
 今日はひさしぶりによいお天気だ。とても
 うれしい。外へ出て、朝の空気をいっぱい
 にすいこんだ。とても気持ちがよい。
 国史の時間に警戒警報が発令された。す
 ぐ寮へ歸って防空ふくさうをととのへた。
 国史の時間は情報ばかりはいるのでちっと
 も出来なかった。
 午後理科研究をした。私は草の研究を
 した。それから日記をかいて、外で元氣
 よく運動した。

五月二十日

日曜日 曇のち晴

今日も又曇だ。午前中の全校運動は中止になった。寮へ歸つてから、お家のお手傳ひをした。防空壕に石をばこんでゐる時かにかたくさん出て来た。まだ子かにとてもかはいらしかつた。とても氣持がよかつた。

五月二十一日 月曜日

目がさめると、だれもおなかつた。私はびっくりして飛び起きた。三橋さん

か、もうみんなかけあしに行つたの

とおっしゃつたのではじめて氣がついた。お日様の光が、部屋の中に入しこんでみ



た。なんだかお日様に笑はれてゐるやうな氣がして、はづかしかった。

今日の行軍は足がいたいで行かれなかつた。とてもつまらなかつた。

五月二十一日

今日も又どんよりと曇つてゐた。

午後チグスの

の豫防注射をした。

いたさう

なのでびくびくしてゐたがそんなでも

なかつた。それからあつきの掃除を

した。とてもにくさんある。すこす

るとすぐあきてしまった。私は自分の

はり強くないのを自分でしかりながら

一生けんめいにやつた。外では雨がしと



しとと降ってゐた。

五月二十三日 水曜日

昨日の雨はまだ降り續いてゐる。今日は一時間おきに過度ををはかるので急がしい。忘れずに出来るかしら？心配だ。そんな事を思つてゐながらとうとう二時の時はかるのを忘れてしまった。これは失ばい。

五月二十四日 木曜日 晴

今日はひさしぶりによいお天だ。とてもうれしい。つばめが楽しさうに電電線と鳴いてゐる。空はすっきりとはれてゐる私の心も空のやうにすっきりとしてゐるかしら。これから毎日この空のやうなきれいなすんだ心にしよう。午前中山菜取り。日がじりじりと照りつける。私達に初夏をおもはせるので

あった。野原にはわらびがありすぎるほどに。よきによき出てゐた。すいたおなかをかかへながらや々と学校へついた。

今日は小川の宮様がこの福光の国民学校にいらつしやうた時の記念日なので午後はその時おつかひになつた食器や書物を見せていただいた。

夕方おさんぽをした。すずしい風が私達のからだをなでて行くやうに通つて行く。月加とてもきれいだ。吉田さんと田島さんと三人で仲よく手をつないで行つた。なんだからとても氣持がよかつた。橋のところへ来ると三人のゐるいてゐるかげが、幸福さうにうつてゐた。

五月二十五日

金曜日晴

今日もよく晴れてゐる。第一時チブス豫防注射——黑板を見てびくくりした。いたさうだな。

六時間目四五年のお洗濯をしてあげた。お母様になつたつもりで。じゃぶじゃぶ。



五月二十六日

土曜日晴

午前中福光國民學校の発表會を見せていた。どれこれもたいへんお上手だった。私達も負けずにやらなくては。午後楽しい映画會。ブルマ戦記、兵隊の御苦勞を見て自然に頭がさかった。

最後にきん畫とでもおもしろかった。外に出ると、とても氣持がよかった。

五月二十七日

日曜日晴

今日は海軍記念日。さうして又投擲球大會だ。朝から明かるい心ではりきってゐた。

第一回目三部六年の二組と、勝てるかしらと思つてすこしびくびくしてゐた。いっしょけんめいやつたので勝てたともうれしい。つぎは一部六年の二組と。これも又かった。最後の洋決勝の時いっしょけんめいがんばったかとうとうまけてしまった。とてもくやしかった。夕方石風呂へ入って寝た。とても氣持がよかった。

五月二十八日

月曜日晴

今日は立野ヶ原へ山菜取りに行った。とてもたくさんある。むちゅうになつてどん

静のや
岩にみい
蟬の聲
吾産
このまの持が
令りますか

どん進んでしまったので、高田先生とはな
れてしまった。どを見ても見えない。バ
配になっちゃった。あっちへ行ったりこち
へ行ったりしてさかした。やっと見つかつた
ので安んじて取った。お晝は木かげでいた
だいた。そばの木でせみがみんみんとない
てゐる。もう夏が来たのだめ。

五月二十九日

火曜日 晴

今日もとてもよいお天気。
理科の時間おそろしい宇宙のお話しがあ
た。とてもうわかつた。体操の時間は五年
生と蹴壘球のおけいこをした。もうびき
大会があるのだ。しっかりがんばらう。

五月三十日

水曜日 晴

待ちに待った夜間訓練。
二時半ごろ立野ヶ原へ向って出發した。今
うれしくてとぶやうにしてゐる。いた。今

日はとても近く感じた。私達は炊事の
お手傳。先生がこうやどうを切っていく
しゃるのを見ると、おままごとのやうな氣
がした。青天井でのお食事とはくべつ
においしかった。の下
それから火をかこんで、歌の會をした。
先生も歌って下さった。とてもおもしろ
い。いちばん楽しいたからさがし、いっしょうけ
んめいさかした。が一つも見つからなかつ
た。私の目がわるいのかしら。ぼんくら
目だまかな。
今日はつかれたのでぐっすり眠った。

五月三十日

午前中お洗濯をした。今日はお寝まき
も洗った。今日はお天気がな
ですぐかはいた。

午後荷物のせいとんをしてから、なかすへ
行って遊んだ。おなかをこわしてゐるので
川へ入らないでなかすでおだんごをつ
くって遊んだ。とてもおもしろかった。
六月一日 金曜日
もう六月だ。この六月私が
班長をすることになった。
班長としてはづかしくない。
やうに。又二部六年が
よい組になるやうにつとめ
ようと思つた。
今日は金澤の方へ行軍
した。急な山をのぼるのは
とてもつかれた。頂上に
ついて下を見ると、福光町がうつく
しくはっきり見えた。その景色のよいところ
でおべん當をいただいた。



入梅は
六月十一日

それから一時間ぐらひぬらび取りをした。
ささやぶの中をさがした。とてもあるき
にくい。じゃんぐのやうだ。私は兵隊
さんの事をいろいろ考へて元氣よく
あるいた。
歸りはさが道ばかりおりた。上りより
はずつとろくだった。
六月二日 土曜日 雨
朝から雨降りだ。もう入梅にへったのかし
ら。
午前中とこ屋さんへ行った。とてもきれい
になったので、さっぱりした。先生方はお
もちつきをなさりに前田寮にいらっしゃった
のでずつと自習をした。
夕食に先生が苦バについて下ごつた
かんぱり餅をいただいた。とてもおい
しい。

いーとすね

六月五日 火曜日 晴
午前中夜間訓練の感想文をかいた
お晝までにいっつなのであみものをし
た。

午後授業はずつと自習だ。今晚日
記を出すので字のまちがひがないかし
らべた。

六月六日 水曜日 曇

朝早く起こされた。しきふをお洗濯するか
らであった。しきふのお洗濯はうまれて始
めてだ。どこから洗っていいのかわからな
かった。お風呂場で洗った。

午後もずつと自習なので、朝ののこりの
しきふを洗った。とてもおもくろい。
ぼちやぼちやゆすぐと、たくさん石けん
のあわが出て来る。せつかくお洗濯し
たのに、お日様は雲にかくれてしまった。

詩の心所にみえる。ちんいゝをす
けあけを決心もよく命をまもるれ
けりきと。とらう。要するに言葉を
かへりかへ。日記をくまらうに
あみものをしきふを洗う。お
みせう。もうすしきふを
研光——すい

六月七日 木曜日 雨



今日は行軍だ。目がさめる
と、しとしとと雨が降って
おる。私はつまらないなと思つた。
雨なのでふつと通り授業だ。雨が降って
おて、ねむいような気がした。
午後今日のふく習をしてから、あみもの
をした。手袋がかたほう出来たのでとて
もうれしい。

六月八日

金曜日

今日も又雨。春の雨はなごりをしいのであらう。朝食後大詔奉戴式があった。兵隊さんはこの雨の中でもいっしやうけんめい戦つてゐて下さるのだ。有かたいなと思つた。私も兵隊さんに負けずに、百一日を正しくくうして行かう。

午後心をこめて慰問文をかいた。兵隊さんがお喜びになるやうに。今月は北支の兵隊さんへ出した。雨はひつきりなしに降つてゐた。

六月九日

土

今日も雨。いつになつたらうやむのだらう。蛙がうるしさうにうるしけうとないてゐた。



午前中ふつう通り授業。今日はなんだかぼんやりしてしまつた。

午後はなつばを洗つた。お家でやったことをいろいろ思ひ出した。こいふことをするのほだいすきだ。

夕すつつみをさんぼした。とてもきもちがよかった。福光の驛にも行つた。

ああ、二ヶ月前始めてここへ来たのだった。

六月十日

日曜日

時の記念日だ。日曜日だが食量増産のため立野ヶ原へ山菜取りに行つた。まだふといのがたくさんあった。相良さんといっしょにほとんどんさきへ行つた。行けば行くほどたくさんあった。目がじりじりと照りつける。ふいてもふいても干が出て来る。八月になつたらどんなだらう。

昼食は、黒つちの見える所でおいしく

いただいた。その時には、もう袋に四分の
三位わらびが入ってゐた。ああうれしい。
晝食がすんでから、すぐ歸った。しゃくや
くがとてもきれいにさいてゐた。
六月十一日 月曜日
今日は休養だ。午前中
寮でお洗濯をした。しゃく
やくがきれいにさき、そろつて
ぬる前で、楽しくお洗
濯をした。空は曇つて
おて、なんだか雨が降りさ
うだった。
午後は、トランプをしたり
あみものをしたりして、ゆつくり休養した
とても時間のたつのがおそく感じて、たいく
つでにいくつでたまらなかつた。時計とに
らめっこをしながら、時間の来るのを待つ



た。

六月十二日

火曜日 雨

目がさめると、空はどんよりとしてゐて、
こまかな雨が音もなく降つてゐた。草木
はうれしやうに、この雨をむかへてゐた。
午後はいくつになつたので、みんなできせ
かへ人形を作つて遊んだ。とてもおもしろか
つた。夕方大島さんのお母様が面會にいっ
つした。私のお母様のやうな気がしてとても
うれしかった。戦争に
勝ちぬけためだ。お家
のお母様がいらっしや
なくとも、元氣よく
勉強、運動にはげ
お母様お父様に御心配
かけないやうにと
めよう。



六月十三日

水曜日

もう梅雨に入ったの

だ。今日も又雨降りだ。

午後のお裁縫の時間はもんぺをたった。私はたち終ったのでとてもうれしかった。あと縫ふだけでよいのだ。出来るのが楽しみだ。早く作ってはいてみたい。

夕食の時、前田先生がいらしゃった。久米川にみた時のことを思っ、なつかしくなった。



六月十三日(水)

六月十四日

木曜日

雨のち晴

今日も雨。つまらないなあ。朝食後食器を洗ひに行く時、外を見ると、うさぎのお

家の中にかはいはいかはいはい

うさぎのさが、親うさぎ

のまわりをよちよちある

いてみた。私は思はず、

かはいいつと言ってしまった。

午後から雨もすっきりや

みお日様てりだした。

六月十五日 金曜日

今日は久しぶりにお天

氣だ。立野ヶ原へ山菜取りに行った。黒い午が

野原でも」と鳴いてみた。わらびは、

まだたくさん出てみた。今日も袋いっぱい

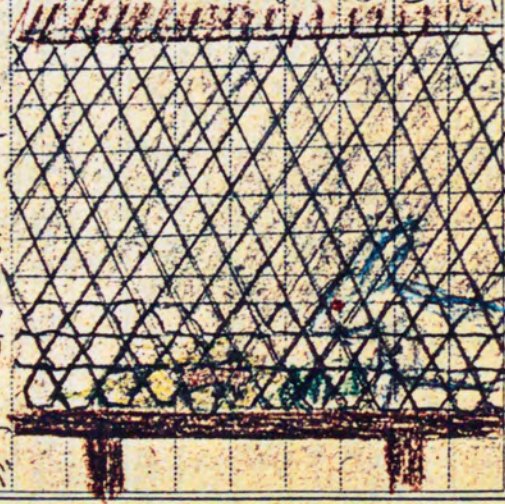
にとりなくてけ。ちまなこになつてさ

がした。遠くの方で、かっこ鳥がかはい

こえで鳴いてみた。とてもしづかな感じ

がした。

お晝は郡先生といっしょに、おいしい



た。だいた。歸りはせりをたくさんつんで歸

六月十六日

土曜日

今日は休養だ。午前中、みんなでまりつきを
して遊んだ。みんなたいへんお上手だ。私
はちつとも出来ないのではづかしかった。でも
今に上手になつてみんなと楽しく遊べるやう
にならう。

午後体重をく定を
してから寮へ歸つて
お晝寝をした。始め
のうちはお話をし
たりしてゐたが、
しらすしらす寝て
しまった。



六月十七日

日曜日 晴

午前中全校運動。今日は主に白兵戦技をし
た。体當りと柔道と剣道と手留弾を投げる
おけいこのつをした。どれもこれもとても
むづかしい。しつかりおけいこをして、敵
が来たら、めちやくちやにたはしてしまふの
だ。なんだか急に心が強くなつたやうな気が
した。

午後は寮へ歸つて頭洗ひをした。今日は高田先
生が歸つていらつしやるはずだ。まちどほしくて
まらない。みんなで汽車が通るたんびに
あれに乗つていらつしやつたかしら。

などいつてゐた。夕食の時歸つていらつしや
たので、とてもうれしかった。夜、お風呂に入つ
て寝た。とても気持ちがよかつた。

六月十八日

月曜日 晴

No.

No.

今日は開院宮様の國さうの日だ。朝會の時さう拜式をした。それからすぐ山菜取りに三橋さんへ向かった。大島さんと三橋さんはいらっしやらないので二部六年はたった六人だった。

空は青空よい天気

みんな元気で歩きます

今日は遠足うれしな。

「休けい」

山は目の前だ。これが

ら急な山道をのぼるの

だ。五分位休みすぐのぼった。わんどで

つるつるすべる。一足一足ふみしめてのぼった。こんな急なところをのぼるのははじ

めてだ。はあ、はあ。と言ひながら

のぼった。つかれたなと思つたが、兵

隊さんの事を思つてがんばった。

と中でふきを取つてから頂上でおべん當を
いただいた。白いてふがあうちとびまはつ
てみた。

六月十九日

火曜日

午前中ふつう通り授業をした。

午後演習會を見に行った。私達疎開學

童のために、わざわざ東京から来て下さった

のだ。有がたいなあと思つた。主に音楽や

をどりだった。とてもにぎやかだ。なんだ

か自分までうかれさうになった。かうし

てゐる時でも、兵隊さんはいっしやうけんめ

いに働いてゐて下さるのだ。この演習會

を感謝して見て、明日からは又しっかりと

勉強運動にはげむのだ。

六月二十日

水曜日

今日は山菜取りだ。この間からの山菜取り

で、足がすこし痛かったが、これもお國のた

めの増産だ。元氣を出して行った。立野ヶ原
 から小川づたひに、セリを取って行った。
 空でひばりが氣持よくさへずってゐる。
 ちよろちよろと流れてゐる小川もみんな日の光
 をうけて楽しそうに流れてゐる。そのそばに
 たくさんセリが出てゐた。ひよろ長いのや、小さ
 いのがたくさんあった。袋がすぐいっぱいになつ
 た。しばらく行くと
 矢部川の上流へ出た。
 その橋のしたで、
 川の流れを見なが
 らたのしくお食事
 をした。
 歸りは、つつみ
 をあるいて歸った。

